

悪役は大事だ 阿部圭太郎 長野市3年

悪役も活やく テックレンジャー

テックレンジャーショーの悪役になりたくて飯田に来ました。悪やくを決める時、おもいきり手を上げました。一人だけでした。おもいきり手をあげるひつようは、なかったかもしれないけど悪役の親玉「タイ・アック」になれてよかったです。

なぜ悪役になりたかったかという一番自だからです。タイ・アックは手足を大げさに動かして、自分をこきつかいます。せんとしうシーンは、一番の見所で、まずテックイエローのパンチを左手でおさえて右手でパンチするように見せます。このときしてはいけないのは、本番になぐることです。おそくてもいいからとにかなぐるなと高校生のお兄さんたちに教わりました。

チョップをしてはねかえされ、テックイエローにキックされ、最後はテックバズーカにうたれるせっています。本番では、うたれる前にテントに帰っちゃいました。でも、さい後いがいは、せいこうしてよかったです。

悪は、いつも負けちゃうけど何ども立ち向かって来るすごいやつだと思います。



タイ・アック



高校生の演じる悪役は迫力満点



しかしなんだね、親分すごいね！ イ〜！

ほんとうだね…。 イ〜！



ショウ・アック

「元日のこども新聞にのった「テックレンジャー」の記事は見てくれたかな。飯田工業高校の生徒たちが演じるテックレンジャー・ショーのほか、こども記者のみんなもテックレンジャー・ジュニアショーに出陣。ヒーローはもちろん、悪役も大活やくし、ショーを盛りあげました。

こちら編集局

1月15日に女の子が産まれました。おなかが痛くなり、15日の朝、産院へ向かいましたが、着いたら痛みが遠のいてしまいました。産院でひとねおりましたら、また陣痛が来て、あっという間に産まれました。身長、体重ともに、1人目の娘とびたりと同じでびっくり！

赤ちゃんが出てくる時、お医者さんに「顔の筋肉は関係ないよ」と笑われてしまいましたが、写真のような顔で力をふりしぼっていたようです。出産後も、母親の心と体、赤ちゃんとのつながりは、不思議でいっぱい。産後2日目くらいからは母乳がこんこんとわき出して、眠っている赤ちゃんを起こして「お願い、おっぱい飲んで〜」と言いたくなるほどです（母乳がたまると、とっても痛いのです）。お産の大変さはたとえようがありませんが、けろりと忘れ、家族が増えるっていいなあ、また増えるかなあ、とほんやりと想像したりしています。

みなさんの誕生にも、きっといろんなエピソードがあるはず。でも、お家の方も、みなさんが元気に大きくなるよう、毎日に追われて、忘れてしまっていることもあると思います。じっくり時間をかけて、思い出してもらってください。温かかったり、不思議な気持ちをもたらえると嬉しいです。

では、今年もよい1年になりますように。(長沼佳史)



こども記者の演じた戦闘シーン



もし 記者じゃなかったら

なりたい自分をイメージしてみようかな

こども新聞のお正月版「信州おうえん団」を担当しました。飯田工業高校のヒーロー「飯工戦隊テックレンジャー」が登場したり、長野県中のご当地キャラ100体が大集合したり。みんな楽しんでくれたかな？

さて、「もし記者じゃなかったら？」の前に、記者というもみんなは、どんな仕事だと思いますか。事件現場にかけつけたり、えらい人に話を聞いたり、「取材をする」仕事を思い浮かべるのではないのでしょうか。私も信毎の入社試験を受けるまでは、そういうイメージを持っていました。

ところが、私はいま新聞社の整理部というところで仕事をしている「整理記者」ですが、取材はしません。だから、記者の仕事をよく知らなかった昔の自分から見れば、いまがまさに「記者じゃない仕事」をしているのかもしれない。取材をしないのになぜ記者なのか。興味を持ったなら、取材教室やこどもスクールに参加したときに聞いてみてください。小さいころから、これになりたいーとはっきりした考えはありません

編集局整理部 柅津 学



でした。思い浮かんだ中には、小中学校の先生や大学の教授、なれるなら弁護士なんていうのもありました。就職活動の時は、新聞社のほかに、銀行や公務員の試験も受けたし、システムエンジニアの会社にも面接に行きました。

そうそう、大学生のころ、あるテレビ番組の生放送に出たときのこと。アナウンサーが、打ち合わせとまったく違う進行をして、それにアドリブで話を合わせたことがありました。そのアナウンサーから「なかなかうまいね。うちに来ない？」と言われ、ちょっとだけその気になったこともありました。勘違いしなくてよかったです。

こうして思い返してみると、もし記者じゃなかったら何になっていたのかますます分からなくなります。時々「なりたい自分になる」という言葉を聞きますが、まずそれを見つけるのがなかなか難しいですね。これを機会に、なりたい自分をもう少しイメージしてみようと思います。